

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

▼ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		多くの近隣の方と顔なじみになり声をかけ合える間柄にしたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		自治会長様等にも運営推進会議等の参加をしていただくなどして交流を深めるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	朝日生命でプルタブを一定量集めると車椅子にできる案内が来た為、散歩がてらプルタブを届けに行くことを不定期ではあるが行っている(そよ風に反映されるわけではない)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義については全員が理解するよう努めている。利用者様のご家族様からの要望等に対しては会議・ケアカンファレンス・日々のミーティング等で改善策を話し合っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では行事報告の他、実際に見て頂いたりしている。その他前回の会議にて提案があったことへの改善点等も報告している。会議で出された意見や要望については毎日のミーティングや会議等で話し合い、業務の徹底を行うようにしている。		近隣の方たちとの交流をより増やしていけるよう、様々な職種の方に声をかけていく予定。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所職員は監督指導する立場の為会議には参加できないとのコメント有り。平成19年10月からは地域包括支援センターの職員を参加対象にするようにとのこと。市役所では会議については内容を把握し共有化したいとの事で議事録を提出している。その他市役所から質問が入った時は内容について報告・連絡をしている。		市役所側としても不明な点が多いため、密に連絡を取って改善していこうと話している。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	手続きが必要になった時はその都度職員に説明をしている。市主催の権利擁護の研修会等の参加を促し出席して知識を習得できる機会を設けたり、会議で簡単な意味合いや流れ等を説明している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝・夕の申し送り等で虐待を発見した場合は即通報する義務がある旨の説明を行った。		平成20年10月に本社においても虐待についての研修があったため、何回かに分けて職員に研修報告を行う予定。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に数回自宅訪問して本人様の状況を少しでも多く把握できるようにしている。ご家族にはこまめに連絡を取り入居までの準備等について説明をしている。契約時には入居初期に起こりうる後本人様の变化やリスクについても説明をしている。また逆に見学に来て頂き、どのような環境であるかを実際に見て頂いている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員が時々来所し、入居者様から直接話を聞く機会を設けている。日常の意見・不満・苦情等についてはそれらの原因を話し合い改善できるよう随時話し合っている。</p>	<p>介護相談員制度を上手に活用し、様々な意見を聞き改善に役立てたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月個別に作成した『そよ風通信』を作成しご家族様に送っている。また入居者様に変化が見られたときには電話やメールにて報告・相談を行っている。金銭管理については毎月領収書と出納帳をご家族に送付している。職員の異動等については電話にてご家族に連絡をするほか、運営推進会議においても報告をしている。</p>	<p>居室担当が誰であることを明確にし、ご家族様とも信頼関係を築けるようにし、職員の異動・退職・入職についても明確になるようにそよ風通信等を上手く活用していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族が面会に来られた時や運営推進会議等でもご家族からの意見を頂くようにしている。また不安が不満に繋がらないよう事前の話を聞くようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニットごとのカンファレンスやグループホーム会議等で全員から意見が出やすいような環境作りを心がけ、配慮をしている。</p>	<p>個別面談等を実施しており、個々の意見を聞きだしていくようにしたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>突発的なことに対して対応できる職員を必ず配置するようなシフトにしており対応している。</p>	<p>より個別の要望に対して柔軟な対応ができるよう人員の補充を継続して行っていく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できるだけ顔なじみの職員で対応できるよう、職員の固定を図っている。やむを得ず職員が異動・離職等がある場合には、入居者様やご家族様が不安にならないようなシフトを組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>幅広い知識を多くの職員に習得してもらえるよう、社内他センターとの意見交換会等に参加している。またチームワークでの業務の重要性を改めて知ってもらえるよう、社外研修等にも参加している。日常業務以外に担当している業務は定期的に変更し様々な業務がこなせるよう配慮している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>社内では他の入所施設職員との意見交換会への参加をすることで交流を図っている。社外では市内の連絡協議会等への参加をして交流を深めている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>表情や態度に変化のある職員には声をかけて話を聞く時間を持っている。管理者の他ユニットリーダーにも相談相手になるよう依頼をしている。不定期ではあるが、センター全体での親睦会等を実施し気分転換等を図っている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員にとっての得意分野と不得意分野を見極め、把握するようにしている。得意分野に関してはより一層伸ばせるよう、不得意分野に関しては他の職員からの指導等により苦手意識がなくなるように努めている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前訪問を数回行い、本人様の身体状況の他、精神的苦痛や困っていること等を把握できるようにしている。世間話を通して性格等も少しでも多く知ることができるように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回訪問の時に家族の現状の不安・不満等を伺うようにしている。その後も電話連絡や訪問を行い、徐々に信頼関係が築け話がしやすい状況を作っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで行うことができるサービスが、その方の「その時」に見合ったものなのかを見極め、場合によっては他の病院や施設等の説明を行う。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族様と見学をして頂いたりデイサービスを利用しながら施設全体に馴染んでいただけるよう援助を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活の中で入居者様には出来る事は行っていただいている。料理の方法や裁縫を教わることもある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの意向を聞き入れる時間を面会時等に設けられるよう配慮をしている。入居者様を共に支えていくご家族様の身体状況等にもできる限り配慮していくようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出・外泊については自由であること等など、相談を受けた時や契約時にご家族様に説明している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から行きつけの美容室がある場合には継続して通っていただけるよう援助したりしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食後の食器拭きとうをお互いに声をかけて参加して頂けるよう職員から促すこともある。		認知症状が進むと他者とのコミュニケーションが図りにくい方もいるため、円滑に交流ができるよう職員が間に入り関わっていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院後退所になった方やご家族に最近の状況についてお聞きすることがある。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様からの話の中で多く名前が聞かれる人物について確認が困難な場合等にはご家族様に問い合わせる関係性を伺うようにしている。外出したい、こんなことをしてみたいとの希望については可能な事柄については対応し、困難な事柄に関しては近隣を散歩する等して気分転換を図ることもある。		今よりも多く個別対応し、外出の機会を設けていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ユニットごとのケアカンファレンス等で入居者様の要望や生活スタイルについて話し合っている。できるだけ入居者様の意に沿うような対応に変更できるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様からの希望が出にくならないよう、状態を見ながらできる限り個別対応しその方にあった生活ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニットで月1回(必要時は随時)ケアカンファレンスを開催している。そこで話し合われた内容でご家族にも協力していただきたい事柄に関しては電話にて対応の変応を行っている。その他2週間に1度往診医とも状況を報告しながら医療面からのアドバイスを頂いている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月から1年に1回見直しを行っている。		今後はもう少し頻回に見直してケアプランを作成して行きたい。ご家族が来所される予定にあわせご家族も含めて担当者会議を開催していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書を元にケース記録に日々の状況について記録をしている。ケアカンファレンスの際に前回の計画についても評価を行っている。個別に水分量・食事・排泄の状況、身体測定の記録をとり、月間で分かりやすいよう工夫をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	消防訓練等を通して地域の方との連携をとるようにしている。その他ボランティアの方に協力していただきながら多様な年間行事も進めている。		緊急時には近隣の方の協力が仰げるよう、より一層交流を深めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	八潮市は平成19年10月に地域包括支援センターが開設し、その後から連携をとるようにしている。また、成年後見人として入居者様を支援してくださっている方とは随時連絡をとり入居者様にも面会をして頂いて状況説明を行っている。		運営推進会議の内容を濃いものにし、より一層地域包括支援センターの職員の方と連携を図っていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前から関わっているケアマネジャーには入居後の様子についても必要時に状況を説明している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的な運営推進会議開催を行い、地域包括支援センターの職員の方にも来所していただき、必要な時には様々な相談を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居説明時にかかりつけ医の確認を行なっている。当センターにも月2回往診医が来ることも説明し選択していただくようにしている。今までのかかりつけ医に継続して通院する方は希望を優先している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の居宅介護支援事業所等にも協力をいただき認知所に詳しい病院等を紹介してもらっている他、往診医から情報を得て受診もしている。職員が同行したり、先方の医師に近況の報告書を提出し、より詳しい状況を説明できるように努めている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設のデイサービスの看護師が1日に1回はグループホームに寄り、全員の方の体調の把握をしてくれている。その他の相談についても看護師よりアドバイスをもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	往診医と密に連絡をとっている。入院になった時は病院へ見舞いに行ったり、主治医に会えない時にはFAX等で病状について問い合わせる等して情報を集めるようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを希望されるご家族には、入居者様が元気づけられるようから看取りができる身体的・環境的状况等の説明を行っている。ターミナルケアを行うにあたっては確認書を取るほか、介護計画書も状況が変わる都度説明を行っている。主治医にもご家族とも話し合いの内容を報告し、その時々々の状況を共有してもらっている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアについてはセンター内で研修を開く等して、まず職員が理解することから始めている。どこまでできてどこからできないのかを見極める為にも主治医との連絡は密にとっている。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設へ転居される場合は先方の施設職員宛にサマリーを作成する等している。先方へ入居した後にも問い合わせ等があった時には随時対応し情報提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者様が認知症であっても職員よりも人生の先輩であり尊敬する立場にあることを忘れずに言葉使いもそれに見合った丁寧な言葉で声掛けを行うよう、職員間で徹底するようにしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>質問する時にはその方が分かり易い言葉を選びいくつかの選択肢を提供して選んで頂くように心がけている。それでも言葉の理解が困難な方にはその方の嗜好等を職員が加味して選ぶようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の日課表があるが、入居者様に対して強制はしておらず、その方の生活スタイルにあった時間配分で生活していただくように心がけている。</p>	<p>できるだけ時間におわれずゆったりとした時間を過ごして頂くよう、職員もあせらずに行動にメリハリをつけるようにしている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者様が自分で選べる方に関しては、起床時にその日に着る服を選んでいただいている。困難な方に関しては職員が嗜好を加味して選択している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>昼食は厨房調理で選択性となっており、職員が個別に聞き選んでいただいている。昼食は夜勤者が調理を行うが、油禁止の方やパン食を希望する方には別メニューを作り対応している。食器の方付けに関してはできる範囲のことを個々に声をかけ、毎回行っていただいている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>タバコ・飲酒は主治医との相談の上で量を決め、可能な方に関しては職員が見守りながら行っている。現在はタバコを吸われる方がいらっしゃり、火事等にならないよう、職員が見守りながら吸っていただいている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>尿意が不明な片もいるため、定期的にトイレの声かけ・誘導を行っている。(日中は2時間おき)やかんは個々の排泄の時間帯が異なるため、個別の誘導時間をもうけ、夜間誘導を実施している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居前の事前調査でほとんどの方が夕方頃にかけて入浴をされていたため、おやつ後に早く入りたい方、最後に入りたい方を把握し声をかけている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>ある程度の就寝時間は決めているが、眠れない方や生活スタイルで遅くまで起きている方には事務所で職員と一緒に会話を楽しんだりしていただいている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>雑誌を見るのが好きな方には一緒に本屋に出かけ、好みの雑誌を購入していただき楽しんでもらえるようにしている。その他歌が好きな方には、頻繁に一緒に歌うなどして楽しみを作るようにしている。</p>		誰もが好みの雑誌等を回覧できるような書籍コーナーの設置
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在は個々での現金管理は紛失してしまうことがほとんどのためしていただいているが、ご家族から預かっているお小遣いで時折必要な者をご自分で職員と一緒に買い物に行くような支援をしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>外出希望のある方は偏りがあるため、職員が買い物に行く際に様々な入居者様に声をかけ散歩を楽しみながら買い物もしていただいたりしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>父の日には男性入居者様と職員でうなぎを食べに行ったり、喫茶店に少人数で出かけたりしている。また墓参りに行きたい方にはご家族に同行していただき外出することもある。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望がある場合は、あらかじめ職員から先方に連絡を取り許可をいただいてからかけていただくようにしている。場合によっては贈り物をしたい方もいるため、職員が品物を梱包し郵送することもある。		今後は手紙などを自筆で書いていただき、郵送する等も実施してみたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	普段からできるだけ面会に来ていただき入居者様に楽しみを増やしてほしいとご家族にも説明をしている。面会に来ていただいた時には入居者様とご家族の意向に沿うよう、居室又はリビングにて過ごしていただくようにしている。場合によっては外出して喫茶店でコーヒーを飲んでひとときを楽しんでいらっしゃる方もいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム会議等にて拘束に関する禁止事項等について職員が意思統一を図るようにしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の立地が交通の激しい場所にあるため、玄関には鍵をかけている。ご家族様には随時口頭説明をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員がリビングに最低1人は残るようにしている。夜間は2人が交代で休憩を取るようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁は持ち歩く方がいるため手の届かない場所に保管しているが、それ以外のものについては特に鍵をかける等はしていない。危険と思われる者を使用する時には職員が見守りを行いながら使用していただいている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	様々な事故については勉強会等で職員の知識を高めている。火災等については防災訓練を定期的に行い、石けん等の口に入れると危険なものについては声をかけ他のことに気をそらす等して未然に事故を防ぐようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	グループホーム会議等で定期的に緊急時の対応について説明を行っている。応急手当等については往診医等に指示を仰いで対応するようにしている。新しく入った職員には緊急の連絡体制(誰に指示を仰ぐのか)等を早めに指導するようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	センター内での避難訓練を年に2回実施している。		近隣の方へのアプローチが不足している為、今後は挨拶やそよ風の説明だけではなく非常事態の協力についても依頼をかけていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	精神状態・身体状況の変改に伴い、電話や面接にてご家族様に予測される事故などについて説明をしている。著しい状態変化については他の医療機関等の案内もしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインチェックの他、顔色や表情の変化が見られる場合にはこまめなバイタルチェックを実施している。その他往診医や看護師に相談し悪化する前に病院受診をするようにしている。家族への報告も行う。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の入居者様の処方箋を職員が人目で分かるようにしており、内容の変更があった場合には申し送りノートに記載するほか申し送りでも伝えるようにしている。副作用が予測される場合にはその旨についても申し送るようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味な方が多い為、水分の補給を多めに摂っていただくようにしている。その他牛乳や便通の良くなるお茶等で予防を試みている。毎日の体操を行い、身体を動かす機会を作っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけを行い磨きをしていただいている。ほとんどの方が介助が必要なため、義歯を外すところから介助をし、職員が磨いている。できる方には声かけと見守りを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量についてはチェック表等に記載をしている。水分量に関しては1日の合計量を計算し通常と変化がないか等を確認している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	職員全員がインフルエンザの予防接種を実施している。入居者様にもご家族の了解を得て予防接種を実施している。昨年はノロウイルスの事前対策等として専用の消毒液を購入したり、どの薬品が各種消毒に効果があるのか等の知識を職員間で共有するように努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎晩夜勤者が食器用フキン・台フキン・まな板等を次亜塩素酸ナトリウム液で消毒をしている。その他調理器具は冬場に専用の消毒液にて調理器具は冬場に専用の消毒液にて調理ご商独をするようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	暖かい印象を持っていただけるよう、玄関口に植木鉢を置き、はなを定期的に植え替えるようにしている。遠足等の外出した際の写真や日頃の生活の中で写した写真を定期的に張り出すようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような装飾をしている。製作には入居者様にも参加していただくようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、食事を摂る場所以外にもゆっくりできるスペースを確保している。そこで洗濯物をたたんでいただいたり、お茶を飲みながらゆったりと談話をさせていただいたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明にて、できるだけ使い慣れた馴染みのあるものを持参していただくようお願いをしている。茶碗・油のみ・箸のほかタンスや等を持ち込む方もいらっしゃる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は毎日行っている。臭いが気になる場合にはその都度換気を行っている。リビングには湿度温度計を設置し気温・湿度の変化が明確になるようにしている。冬場は常時加湿器を使用し湿度を一定に保つようになっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングや廊下に手すりを設置している。浴槽についても後つけ可能な手すりを設置しており、安心して浴槽の出入りができるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かり易く声をかけ、不安を取り除いて生活ができるように援助をしている。できることについては手を貸さずに見守りをして入居者様に行っていただくようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで花や野菜の栽培をしており、季節の苗を植えている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)